

# 幸せまいて



色紙に記した座右の銘「トップが明るいと企業は明るい！」

北海道を引っ張る経営者たちに話を聞く「青山千景がリーダー直撃 21世紀のプロンティア」が1年1カ月ぶりにリスタート

21世紀のプロンティア 第1弾を飾るのは豆菓子製造・販売する池田食品の池田靖子副社長(36)だ。3日後に迫った節分で大忙しの中、創業70年を迎えた社の過去、今、未来を語ってくれた。

1年1カ月ぶり リスタート 第1弾を飾るのは豆菓子製造・販売する池田食品の池田靖子副社長(36)だ。3日後に迫った節分で大忙しの中、創業70年を迎えた社の過去、今、未来を語ってくれた。

## 文化支える

赤鬼・青鬼に扮して商品を手にする池田副社長(左)と青山

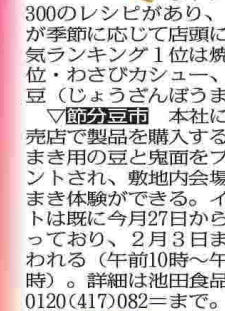


## 豆菓子製造・販売「池田食品」池田 靖子副社長

▽池田食品 本社・札幌市白石区中央1条3の32。1948年創業。創作豆や豆菓子のほか、かりんとう、タマゴボーロなど約300のレシピがあり、そのうち50種類が季節に応じて店頭と並ぶ。売れ筋人気ランキング1位は焼カシュー、2位・わさびカシュー、3位・定山坊豆(しょうざんぼうまめ)。

▽節分豆 本社にある工場直売店で製品を購入すると豆まき用の豆と鬼面をプレゼントされ、敷地内会場で豆まき体験ができる。イベントは既に今月27日から始まっており、2月3日まで行われる(午前10時～午後6時)。詳細は池田食品＝☎0120(417)082＝まで。

▼節分豆市の会場



# 豆の力

内にも外にも福を呼ぶ

▽池田 靖子 (いけだ・やすこ) 1981年(昭和56)2月26日、札幌市生まれの36歳。北星学園大卒。総務、工場、営業部を経て12年に副社長に就任した。時間を有効に使うことがモットーで、睡眠は平均3～4時間、特技は速読。夏はゴルフ、冬はスキーを楽しむ。

「豆は魔を滅すとか、豆に幸せ(と)か語呂合わせにもつながります。大きな声を出して食べてほしい。形が変わっても構わないので、節目を迎える大切な日と文化は伝承してほしい」

「道内では大豆でなく落花生をまくのが主流です。落花生はカラカラとなった縁起がいいとウチで広めたという話もあります」

「もうろん、殻があって雪の上でも取りやすい、食べやすいなど諸説ありますけどね」

「豆は魔を滅すとか、豆に幸せ(と)か語呂合わせにもつながります。大きな声を出して食べてほしい。形が変わっても構わないので、節目を迎える大切な日と文化は伝承してほしい」

「道内では大豆でなく落花生をまくのが主流です。落花生はカラカラとなった縁起がいいとウチで広めたという話もあります」

「道内では大豆でなく落花生をまくのが主流です。落花生はカラカラとなった縁起がいいとウチで広めたという話もあります」

「道内では大豆でなく落花生をまくのが主流です。落花生はカラカラとなった縁起がいいとウチで広めたという話もあります」

「道内では大豆でなく落花生をまくのが主流です。落花生はカラカラとなった縁起がいいとウチで広めたという話もあります」

「道内では大豆でなく落花生をまくのが主流です。落花生はカラカラとなった縁起がいいとウチで広めたという話もあります」

取材後記 大学卒業後に世界を放浪した池田副社長。スリランカに立ち寄った時のエピソードを披露してくれた。紅茶で

有名南国だが、民泊させてもらった地元の人々の反応は意外で「どうしてあんなものをありがたがるのか」といったものがあった。上質なものは庶民まで届きにくいのが理由の一つだと知って衝撃を受けたという。「やっぱり実際に行かないと分からない。外から見

るのと中で見るのでは違う。だから、売られている場所、食べられている場所、足を運ばない」と。若き日の体験が、地元密着イベントを盛り上げたり、北海道に必要とされる企業への道の一つにもなりますね。また、栄養不足の国も多いので役に立っているように、外にも目を向けていきたい。ニューヨークへの出店なども考えています」

「福は内にも外にも呼べるうですね。ありがとございます」

「福は内にも外にも呼べるうですね。ありがとございます」